

# 1 さくら小学校 校内研究グランドデザイン 2019 完成版

## 【学校教育目標】

やさしさ つよさ ◎たくましさ のあるさくら小の子(◎が重点目標)

## 【本校が目指す児童像】

- 一. 自分を大切にし、他を思いやり、一日一日のめあてをもち、積極的に自然や人と関わろうとする児童
- 二. 心身の健康と生活習慣の改善のために努力し、健康を維持しようとする行動力のある児童
- 三. 基礎的・基本的な学力を基盤とした主体的な学習力を身に付け、夢を見るつよさをもち、未来を粘り強く切り拓く児童

## 【学習指導要領の生活科・総合的な学習の時間の目標】

### 【生活科の目標】

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

### 【総合的な学習の時間の目標】

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

## 1 さくら小の研究テーマ

※黄色掛かっているところは、今年度とくに力を入れて取り組むことです。

# 楽しい学びの創造

## ～学びを自分事としてとらえる児童の育成～

研究で目指す児童の姿		
低学年	中学年	高学年
「楽しそう！（自分事）楽しいね!!(学びに向かう力) 楽しいよ!!!(表・知・技) …楽しいと感じ 楽しみながら 楽しく学びを伝えようとする子	「課題解決の見通しを立てられる子」 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">手立て</span> ①大島の材の有効活用、 ②カリマネ(情報スキル)	「自らつながる子」 ～『学び』『他者』『実社会』～
4 つ の 柱	①授業を創り出していく (授業をデザインできる教師集団)	②対話文化を創る (議論を重ねられる同僚性の構築)
	③地域と共に創る学び (地域と伴走できる単元づくり)	④学ぶことが楽しい学校創り (学びを自分事として捉える児童)

## 2 研究テーマ設定の理由

①児童の課題＝教師や地域の課題	②児童の良いところ
<p>① さくら小学校の子どもたちの課題として「①思考力やアドリブ力が低い」「②向上心や競争意識が低い」「③学習意欲に差がある」などの実態がある。</p> <p>→それらの要因として、①「型によって自動的にすすめていく活動が多く、教員に目・手をかけてもらえていること」、②「決まった児童ばかりが活躍する授業で他人任せにして思考しない児童が多くなっている」、③「児童の実態や思いや願いに即して課題が設定できていないのではないか」と考えた。</p>	<p>② 「きりかえが早くくじけない」「素直で明るい」「児童と地域とのつながりが密接であること」</p>

**【本校の生活科・総合的な学習の時間の目指す資質・能力】**

学年	目標を実現するにふさわしい探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
		① 知識及び技能 ＜学びを見いだす力＞	② 思考力・判断力・表現力等 ＜学びを創る力＞	③ 学びに向かう力、人間性等 ＜すすんで関わる力＞
1年		・自分と対象(身近な人々、社会、自然)との関わり 「不思議さ」「楽しさ」など 【1・2年生】 ・研究授業の時に指導案に明記する。 <b>気付きの質を高める</b>	・体験を通して、自分の思いや願いをもつ。 《A 対象から学びを創る》 ・自分の思いや願いを実現するために考え、表現する。 《B 思いや願いから表現する》 →見付ける、比べる、たとえる 分析的に考える →試す、見通す、工夫する 創造的に考える	・身近な人々、社会、自然に自ら働きかける。 ・意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりしようとする。
2年				
3年	自分の生活や身近な地域における伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々 (伝統)	【3年生】 ・伝統文化は、地域の環境によって異なり、様々な伝統文化を比べることで違いが分かり、それぞれの伝統のよさが分かる。 《多様性いろいろある》 ・地域の人同士が協力して、町の伝統文化を守っていることや自分たちも地域の人と協力すれば大きなことを成し遂げられることに気付く。 《連携性力を合わせて》 【4年生】 ・自分の住んでいる地域の動植物にはどのような特徴があり、そこに住む我々の暮らしとどのように関わっているかが分かる。 《相互性関わり合っている》 ・身近な自然環境を今後に残していくためには、どのように自然と関わっていけばよいのか分かる。 《有限性限りがある》 【5年生】 ・身近な地域には、諸問題の解決に向けて協力して取り組んでいる人々がいることに気付く。 《連携性関わり合っている》 ・地域の諸問題に向けて、自分にもできることがあると分かる。 《責任性自分がやるべきことを》 【6年生】 ・地域の諸問題に向けて、働く人々はどのような思いでどんな取り組みをしているのかを知り、自分にもできることがあると分かる。 《責任性自分がやるべきことを》 ・地域の諸問題や働く人々の抱える課題、未来への願いなどは繋がっており、互いに関わり合っていることを理解する。 《相互性関わり合っている》 <b>概念的知識を得る</b>	・自分の生活や身近な地域の中から問いを見だし、思いや願いを基に課題を立てる。 《A 課題の設定》 ・目的に応じて手段を選択し、情報を収集・蓄積する。 《B 情報の収集》 ・事実を捉えるために、比較する、分類する、関連付けるなどしながら情報を整理・分析する。 《C 整理・分析》 ・自分の伝えたいことを明確にし、方法を工夫しながらまとめ・表現する。 《D まとめ・表現》	・課題の解決に向け、目的意識をもって意欲的に取り組み、友達と力を合わせて探究活動に取り組んでいる。 《A 主体性・協働性》 ・自他の意見や考えの違いに気付き、それを受け入れようとする。 《B 他者理解》 ・自分と地域とのつながりに気付き、地域の活動に参加しようとしている。 《C 社会参画》
4年	身近な自然環境とそこに起きている環境問題 (環境)			
5年	大島町北部地区の再生・発展に向けて努力する人々と地域社会 (地域経済)			
6年	町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織 (町づくり) 実社会で働く人々の姿と自己の将来 (キャリア)		・見通しをもって価値ある課題を自分で立て、解決の方法や手順を考える。 《A 課題の設定》 ・目的に応じて手段を選択・工夫し、情報を収集したり、見通しをもって蓄積したりする。 《B 情報の収集》 ・考えるための技法を駆使しながら、情報を整理・分析し、課題に即して判断する。 《C 整理・分析》 ・自分の意見や立場を明確にし、相手や目的に応じて分かりやすくまとめ・表現する。 《D まとめ・表現》	・課題の解決に向けて、課題意識をもち、自分なりの方法を工夫しながら友達や地域の人と協働して、粘り強く探究活動に取り組んでいく。 《A 主体性・協働性》 ・異なる意見や他者の考えを受け入れ、そのよさを生かそうとする。 《B 他者理解》 ・探究活動を通して、自分の実生活・実社会の問題の解決に取り組もうとしている。 《C 社会参画》

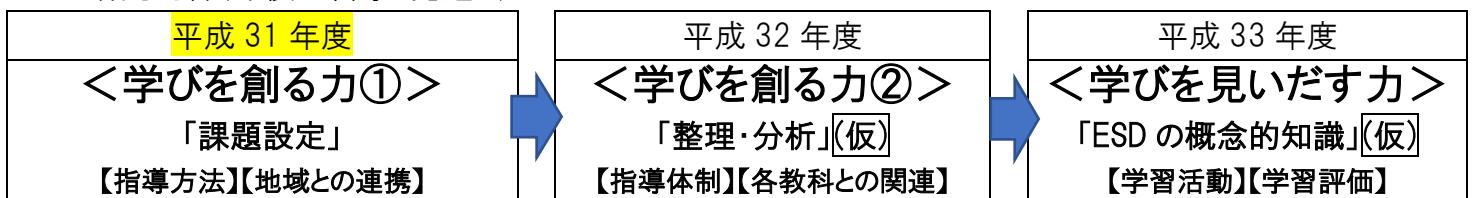
4 研究仮説

- ①教師が楽しい学びを味わわせるような単元を創り出す
- ②児童にとって学びを自分事としてとらえられるようにファシリテーター(児童の思いや願いを引き出し、つなげる)としての存在になる  
→児童が学んだことを生活に生かそうとする力を育むことができる。

※文言の定義

- ・楽しい学び…各教科等の特性を生かすことで、探究課題の解決に向け主体的に活動し、児童が充実感や達成感を得ることができる学び
- ・創造…教師間の対話を通して、児童にとって魅力ある単元(他教科横断・地域の材)を創り出すこと
- ・自分事…児童が自分で課題を立てて、解決に向かって学びと自分の生活とを関連付け、自分の考えや思いを見つめ直すこと

5 研究内容(今後3年間の見通し)



## 6 研究方法

理論研究(分析) <b>小林</b>	授業研究(実証) <b>大向</b>	学力分析(分析) <b>庄屋</b>	組織作り(連携) <b>鈴木</b>
・他の小学校の事例 ・文科省の動向 ・都生総の事例紹介	・研究授業 ・協議会 ・指導案検討	・ベネッセの学力テスト分析 ・朝学習の内容の検討 ・他教科横断の推進 ・ふるさと先生集約	・教育課程作り ・研修夕会 ・年間行事の調整

### <さくらチャート>

研究テーマ(=ゴール)を中央部分に置き、ゴールに迫るための方法を創っていくチャート。空欄部分は、毎年追加していく。

学習評価	指導方法	学習活動
	<b>楽しい学びの創造</b> ～学びを自分事としてとらえる児童の育成～ ①授業を創り出していく ②対話文化を創る ③地域と共に創る学び ④学ぶことが楽しい学校創り	
地域との連携	指導体制	各教科との関連

### <平成31年度『課題設定』を練り上げる>

発問の工夫	思考ツール	ガイドラインの活用	他校との情報交換	GTとの連携授業	HPによる研究発信
教具や地域教材の積極的な活用	指導方法			地域との連携	

### <平成32年度『整理分析』を練り上げる(仮)>

協議会の工夫	年間指導計画の検討、作成	研修夕会の活用	教科等横断的な学習(指導案)	習得・活用・探究による場面設定の工夫	
エッセイの発行	指導体制			各教科との関連	

### <平成33年度『ESDの概念的知識』を練り上げる(仮)>

探究課題の具体的設定	1年間1テーマ	児童にとってリアリティーのある学習活動の展開	ポートフォリオの活用	単元計画の振り返り&評価	ESDの概念的知識
	学習活動			学習評価	

<b>【学習活動】</b> ・児童の興味・関心と教師の願い、教材の特性を踏まえた学習活動の展開 △基本1年間1テーマでの取組 △学年ごと探究課題の具体的な設定	<b>【指導方法】</b> ・考えるための技法の積極的な活用 ・児童の思いや願いを引き出す発問の工夫 →ガイドライン(1時間)を基にした指導 ・教具や地域教材の積極的な活用 △単元の終わりまでに育てほしい姿の明確化	<b>【指導体制】</b> ・毎週火曜日の研修夕会による情報共有 △教員の価値観を共有するエッセイの発行 △自分を高められる協議方法の工夫 △研究全体会での年間指導計画(単元の活動計画)の検討、作成
<b>【学習評価】</b> ・ポートフォリオを活用した評価の充実 ・単元計画の振り返り&評価(年度末) ・ESDの概念的知識を身に付ける学び	<b>【各教科等との関連】</b> ・教科等横断的な学習の推進 ・習得・活用・探究による場面設定の工夫	<b>【地域との連携】</b> △小学校3校(+二中)での情報交換 △大島(北部)の商店、ジオガイドや大島北部(3地区)、役場や支庁の方々の協力 ○HPによる研究発信

※研究テーマの「4つの柱」と「研究内容」がリンクしている部分の分類

<b>①授業を創り出していく</b> <b>授業をデザインできる教師集団</b> ・基本1年間1テーマでの取組 ・児童の思いや願いを引き出す発問の工夫(ガイドライン(1時間)を基にした指導) ・単元の終わりまでに育てほしい姿の明確化 ・自分を高められる協議方法の工夫 ・単元計画の振り返り&評価(年度末) ・教科等横断的な学習の推進	<b>②対話文化を創る</b> <b>議論を重ねられる同僚性の構築</b> ・研究全体会での年間指導計画の検討、作成 ・毎週火曜日の研修夕会による情報共有 ・研究エッセイ(仮)の発行(互いの信念をエッセイで共有)	<b>③地域と共に創る学び</b> <b>地域と伴走できる単元づくり</b> ・小学校3校(+二中)での情報交換 ・大島(北部)の商店、ジオガイドや大島北部(3地区)、役場や支庁の方々の協力 ・HPによる研究発信	<b>④学ぶことが楽しい学校創り</b> <b>学びを自分事として捉える児童</b> ・児童にとってリアリティーのある学習活動の展開 ・考えるための技法の積極的な活用 ・習得・活用・探究による場面設定の工夫 ・「さくら小スタートカリキュラム」の編成・全面实施 ・ポートフォリオを活用した評価の充実 ・ESDの概念的知識を身に付ける学び
---	--	--	--

## 2 校内研究の組織

・学校運営組織表の通り

## 3 研究計画（1学期）

	校内研究	四部会	職員会議	研究授業
4月	3日(火)13:00~14:00 ・考えを共有する【出会う】 4日(木)13:00~15:00 ・単元づくり【計画作り①】 5日(金)9:30~11:30 ・地域巡り 10日(水)14:50~ ・子供の目指す姿①	3日(水)10:30~12:00 ・研究グランドデザイン ・分掌確認&役割分担	4日(木)9:30~11:00 (20分) 「4・5月の見通しを」	
5月	22日(水)14:00~14:50 ・研究テーマ設定の理由	8日(水)14:50~15:30 ・研究授業に向けて	15日(水)14:50~15:30 「5・6月の見通しを」(5分)	30日(木)研究授業Ⅰ ・3学年 授業者:大向 ※寺崎先生来校
6月	19日(水)14:30~15:00 ・研究テーマ設定の理由の確認		26日(水)14:50~15:30 「7・8月の見通しを」(5分)	27日(木)研究授業Ⅱ ・1学年 授業者:杉浦
7月	22日(月)8:30~10:30 ・児童の実態の話し合い	3日(水)14:50~15:30 ・1学期のふり返りについて	19日(金)13:00~14:00 「9月の見通しを」(5分)	
8月	30日(金)9:20~10:20 ・1学期のふり返り【振り返り①】 ・2学期の取り組みについて	30日(金)8:10~9:10 ・2学期以降の見通しについて	30日(金)10:30~11:30 「10月の見通しを」 (研究部なし)	
9月			25日(水)14:50~15:30 「10・11月の見通しを」 (3分)	19日(木)研究授業Ⅲ ・6学年 授業者:鈴木
10月	23日(水)14:30~15:30 ・			25日(金)研究授業Ⅳ <sup>仮</sup> ・2学年 授業者:西本
11月	6日(水)14:30~15:30 ・		20日(水)14:50~15:30 「1月の見通しを」(5分)	
12月	23日(月)14:30~15:30 ・2学期の振り返り &3学期の見通し	4日(水)14:50~15:30 ・年間指導計画づくりに 向けて	18日(水)14:50~15:30 「3学期までの見通しを」 (5分)	5日(木)研究授業Ⅴ ・4学年 授業者:庄屋
1月	9日(木)14:50~15:30 ・年間計画完成 29日(水)14:50~15:30 ・	7日(金)9:15~10:00 ・ 15日(水)14:50~15:30 ・来年度の方向性について		30日(木)研究授業Ⅵ ・5学年 授業者:小林
2月	26日(水)14:50~15:30 ・1年間の振り返り	19日(水)14:50~15:30 ・	5日(水)14:50~15:30 「次年度の計画を」(5分)	
3月			11日(水)13:30~15:30 「次年度の教育計画作り」 (15分) 25日(水)13:00~ 「次年度のスタートを」 (研究なし)	